

やまのべ 議会だより

創る、繋ぐ。子どもたちが誇れるまち

2022 **7**
令和4年7月27日発行
No.117

やまのべ
議会だより
2022年7月号 VOL.117



龍にもたとえられる
ダイナミックな姿

定例会	2
町政のここはどうする？ 一般質問	4
議会報告会「未来を話す会」	8
臨時会	10
新しいまちへの挑戦 議会活動報告	11

写真／杉下の大杉
(関連記事 12ページ)

発行／山形県山辺町議会
編集／広報常任委員会
Eメール: gikai@town.yamanobe.yamagata.jp
〒990-0392 山形県東村山郡山辺町緑ヶ丘5番地
TEL.023-667-1117 FAX.023-667-1112

山辺町議会
ホームページは
こちら



あなたの声をお聞かせください

山辺町消防団の方々からのメッセージ



山辺町消防団長
菅井 康博さん

自分が入団した頃は消防団活動と言え、火災消火活動が主な活動でしたが、現在は自然災害対応の方が断然多くなっています。地球温暖化は予想以上に進んでいるのではないのでしょうか。

世界各地では気温上昇に伴う林野火災や大雨、大洪水や巨大な竜巻など数多く発生しています。日本も例外ではありません。毎年日本のどこかで大雨による洪水被害が発生しています。また今年5月、6月は突風や巨大なひょうの被害が関東や山形県内でも発生しました。我が山辺町はどうでしょうか。令和元年10月の台風による大雨被害。翌2年7月の梅雨末期の大雨による内水氾濫では大門、三河尻地区で床上浸水などの被害をもたらし、町内各地区で土砂崩れ被害も多数発生しましたが人的被害だけは免れることができました。山辺町では避難所を開設し、多くの皆さんが避難されたことは記憶に新しいところです。地震活動は予見する



ことができませんが、台風や大雨は天気予報である程度予測できます。自分の所は大丈夫、自分は大丈夫と思わず早めの避難、早めの行動をとって下さい。避難する際には、余裕があれば鉛やクッキー、チョコレートなど持って行くことと空腹をしのげます。また、膝下くらいまで水が来てしまったら長靴ではなく運動靴などで！長靴は水が入って歩きづらく危険です。スリッパは絶対にやめましょう。そうなる前に早めの避難をして下さい。

大切な人、大切な家族を守るために勇気ある決断をお願いします。

表紙の説明



杉下の大杉は樹齢が約一千年と推定されており根本の周りは9・5メートル、高さ約28メートルと発表されています。

平安時代から神が宿る御神木として数々の伝説があり、清和源氏多田満仲と地区の娘の間に男の子が生まれたとき、この杉の皮を煎じて飲むと産婦の乳の出が良くなるといふ伝承もあります。また、直立する姿が天に飛翔する姿にたとえられ「蟠龍の大杉」と呼ばれてきました。町民の皆さまもぜひその勇壮な姿をじかにご覧になってはいかがでしょうか。

編集後記

わが山辺町の特産品のサクランボは、昨年のような霜の被害も無く無事に収穫を終えました。今年のお味はいかがだったでしょうか。サクランボの甘酸っぱさは本当に自然の恵みを感じさせてくれます。来年こそはぜひ「やまがた紅王」を味わってみたいと思っております。

そんな中、コロナ禍がワクチン接種によりようやく落ち着きを取り戻そうとしていた矢先、ロシアによるウクライナ侵襲、また物価高などの新たな課題に直面しています。これまで当たり前のことのように感じられた普通の日常を、一日も早く取り戻したいと思う今日この頃です。

佐藤 利和記

- 発行責任者 樋口 和男
- 広報常任委員会 委員 渡邊 裕二
- 副委員長 安達 春彦
- 委員 遠藤 真由美
- 委員 佐藤 利和
- 委員 竹本 朋和

◎町ホームページから、議会だよりが閲覧できます。

<https://www.town.yamanobe.yamagata.jp/>



原油価格・物価の高騰から 暮らしを守るために今 後も支援拡大を

定例会のあらまし

第2回定例会が6月8日から10日までの3日間の会期で開催され、7名の議員が一般質問を行いました。山辺町国民健康保険条例の制定が1件、山形広域環境事務組合の選挙、一般会計補正予算、山辺町副町長の選任、給食センターのトラックイン式消毒保管機購入事業契約の締結など各1件、議員発議2件の議案を審議し、いずれも全会一致で可決されました。また、議員の派遣についても報告がなされました。

条例の制定

○山辺町国民健康保険条例の一部改正

新型コロナウイルス感染症の影響により、主たる生計維持者の収入が減少した世帯に係る国保税減免を、令和5年3月31日まで延長しようとするもの。

人事案件

○山形広域環境事務組合議員の選挙

安達春彦
渡邊裕二

の2氏を再選

○山辺町副町長選任の同意

佐藤正彰氏（要害）

事業契約の締結

○トラックイン式消毒保管機の購入
平成2年より使用の消毒保管機を更新
契約の相手方

日本調理機株式会社東北支店

山形営業所

契約金額 1386万円（税込）



夏休みに更新される給食用食器の消毒保管機

議員発議

○議員の派遣

議員の識見拡大と議会の活性化、円滑な議会運営に資するため、各種会議、研修会などに議員を派遣しようとするもの。

○意見書の提出

「令和4年度水田活用の直接支払交付金の見直しに関する意見書」を国会及び関係大臣に提出。なお、県選出国會議員へも意見書の写しを送付する。

報告

○議員の派遣報告

議員5名が「近江老人クラブあけぼの会」の要請により意見交換に派遣された。

令和4年度 一般会計補正予算

歳入歳出にそれぞれ6481万円を追加し
歳入歳出の総額58億2118万円に



3月の地震でひび割れが生じたふるさと資料館

主な補正内容

- 子育て世帯生活支援特別給付金(その他世帯分)給付事業…………… 1037万円の増
- 新型コロナウイルスワクチン接種事業…………… 2967万円の増
- 山辺温泉保養センター原油価格・物価高騰対策支援 …………… 350万円の増
- 担い手育成支援事業…………… 392万円の増
- 町営近江住宅2号棟屋根防水外壁補修工事…………… 1420万円の増
- 町営芦沢住宅1・2号棟外壁アスベスト調査委託料 …………… 78万円の増
- ふるさと資料館補修工事…………… 116万円の増

請願

請願名	令和4年度水田活用の直接支払交付金の見直しに関する請願		
請願者	山形農業協同組合 代表理事組合長 岡崎 輝明 山形農協農政対策協議会 会長 岡崎 輝明		
趣旨	今後5年間に一度も水張りを行わない水田に対して補助金の交付対象水田から除外されることにより、耕作放棄地や離農者の増加などが懸念される。将来にわたって安定的な営農・農地の維持が展望できるよう、適切かつ万全な対策を求める。		
紹介議員	神保 稔	結果	採択



一般質問 町政のここはどうする?

一般質問は、議員が町の行財政や将来に対する考え方などを問い、適切な町政運営を進めているかチェックするものです。山辺町議会では、年4回の定例会で議員が一般質問をしています。

※一般質問は、一問一答方式ですが、紙面の関係で主な質問と答弁を要約して掲載しています。



定例会のお知らせ

次回の定例会は9月です。傍聴については、町ホームページをご覧ください。電話 023-667-1117 (議会事務局)



6月の定例会では、7名の議員が一般質問を行いました。

安達 春彦	今後の取組	町長選出馬と今後の課題、情報発信力の強化を
神保 稔	健診意識の高揚 町長選への対応	①遠藤町長の次期町長選挙への出馬の意思は ②健康寿命延伸に向けた健診事業の推進は
斉藤 昭彦	再出馬	秋の町長選挙で再選を目指すのか
遠藤真由美	スポーツ振興	スポーツを通して みんながつながるまちとは
武田啓一郎	空家対策	空き家の対応 町と町内会の連携を
竹俣 朋	町土保全	町土・山間部を守る対策は
峯田 博	軽度難聴者への支援	軽度・中程度の 難聴者への支援拡大は

今後の取組

町長選出馬と今後の課題、 情報発信力の強化を



安達 春彦 (町長) 今後とも町政の振興発展を推進し、SNSの活用など、情報発信に努める

質問 6期目の任期満了を迎え、当時の思いとこれからの課題をどう考えているか。

答弁 町民の幸せの実現、近隣市町との連携を充実発展させていくため、引き続き町政運営を担ってまいります。

質問 町長になる前より町民が幸せを実感できていると考えているか。その客観的達成指標は。

答弁 山形市との合併を掲げ、町民の安心のため全力を投入し、町長選挙のたびにそれらの評価を受けてきた。

質問 小鶴沢川、須川改修工事、国道112号バイパス化について

答弁 国・県の力を借りるため、陳情などを行い予算を確保してきた。事業推進のため、いち早く着手・着工を強く要望してまいります。

質問 町独自のキャラクターなど町外への情報発信についてどういう戦略をもって取り組んでいくのか。

答弁 町内の自慢の産品が内外で高い評価を受けている。さまざまな意見を聴きながら、新たなキャラクターなど、検討課題としていきたい。

質問 利活用が進んでいない小・中学校跡地、ラベンダー園の具



町内外への情報発信により、協同と地域活性化を

質問 SNSツールを活用して情報発信に努めるということだが、いつまでに発信していくのか。

答弁 以前は「かおりの広場通信」を発信していた。今後は、花の生育状況などその都度お知らせしたい。

体的な方向性など、今後の情報発信をどうしていくか。

答弁 総合管理計画に基づき、町としての利活用方針が決定された段階で、広く情報発信をしていく。

健康寿命延伸に向けた 健診事業の推進は



神保 稔 (町長) 「年に一度の検診」の重要性を啓発し、活動の推進に努める

質問 新型コロナウイルス感染症に対する町民への心のケアは。

答弁 村山保健所などの「こころの健康電話相談窓口」の照会や広報紙やホームページを活用し、引き続き関係機関と連携しながら心のケアに努めている。

質問 町内の疾病状況と未受診者への勧奨は。

答弁 「糖尿病有病者」「脳血管疾患」「脂質異常症」が県内でも上位にある。今後は、病気の早期発見、早期治療、重症化への未然防止など健康への動機づけに向けた事業の推進に努めていく。

質問 就労状況に配慮した土曜日などの受診は。

答弁 土曜日の検診は年に2回ほど実施しているが、今後希望者が増えた場合には調整していく。

質問 働き盛り期へのペックTCT検診への助成は。

答弁 村山管内市町での助成の実態はないが、情報収集に努め、今後検討していく。

次期町長選挙への出馬の 意思は

質問 財源確保、人口減少・少子高齢化社会、市町合併に向けた



健康寿命延伸を目指したピンとシャン教室

考えは。

答弁 新たな財源の確保の検討や人口減少・少子高齢化社会に対応した各種施策を推進し、「山辺町」に住んでいて良かったことを第一に持続可能なまちづくりを進めていく。

質問 合併については、現在の連携中核都市圏における取組を推進し、各分野を総合的に考慮したうえで、町民の意向を尊重しながら、必要と判断した場合には検討していく。「公平・公正・公開」を基本理念に立候補を

決意した。

再出馬

秋の町長選挙で 再選を目指すのか



斉藤 昭彦 (町長) 立候補を決意

質問 災害時町民の安全・安心の施策は。

答弁 災害に強い、協働と安全・安心のまちづくりを目指し鋭意努力してきた。長年の懸念だった消防の常備化と迅速な消防救急体制を構築するため、事務委託の協定を山形市と締結し、消防力の向上を図ってきた。

また、町内全域に光ファイバー網による高速インターネット環境を整備し、防災放送システムで災害時の緊急放送などができるようになった。町自主防災組織連絡協議会を設立し各地区で防災訓練の実施など防災意識の高揚に努めてきた。また、ドクターヘリ支援事業を開始し、多くのかた

がたが救助されている。

質問 若年層の定住促進に欠かせない企業誘致は。

答弁 嶋ノ前土地地区画整理事業による宅地分譲に伴う大型スーパーや薬局の出店、幹線道路沿いには大手コンビニエンスストアや医療機関など、主に町民の日常生活に欠かせない施設が立地し、生活の利便性の向上が図られた。

質問 ライフラインの今後の整備は。

答弁 新たな下水道管の整備予定はないが下水道事業認可区域内で宅



宅地分譲で整備された街並み

地造成などの開発行為に伴い、下水道管の布設工事の際は開発指導要綱の基準に沿った整備を開発者に指導していく。また、簡易水道施設に関しては、安全で安心な水道水を供給するように努める。

質問 アフターコロナへの対応は。

答弁 流行が終息した後、これまでの経験などから得た知見や教訓を生かし、感染拡大防止にしっかり取り組みながら、日常生活や経済活動を取り戻していく必要がある。

スポーツを通して

みんながつながるまちとは



美由（町長）「町スポーツ推進計画」の3つの基本理念達成に向け、さまざまな施策を展開していく

質問 今年3月に開催された、中央公園を楽しくするイベント「ベラボ」は、多くの親子の参加があり今後が楽しみだ。今年度の方向性や親子以外の対象者も考えているか。

答弁 「ベラボ」は「東北芸術工科大学」「株式会社パストラボ」「山辺町」の三者それぞれが「保有する資源を有効に活用し、地域産業の振興を図ることにより、活力ある個性豊かな地域社会の形成・振興および人材育成に資することを目的として締結した。三者が知恵を出し合い子どもから大人まで参加できるものを開催していく。

質問 オリピックで人気のスケートボードは、気候の悪化などで滑ることは禁止されており、練習場所を探して問い合わせてもあるようだ。またバスケットゴール設置の要望も聞いている。推進計画の「未来につながるスポーツ環境づくり」という観点から、中央公園の東屋周辺に計画できないか。



スリーポイントシュートの練習ができるシンプルなスペースでも充分（仙台市内の公園）

答弁 スケートボードなどのできるスペースについては、数年前より中央公園の南側駐車場と町民グラウンドの間にある2つの通路で可能として

きたが専用ではない。またバスケットゴールのスペース確保も現時点では難しい。東屋周辺には池や樹木もあり、中央公園内の配置の検討も必要となってくる。

質問 幅広い世代が楽しく気軽に参加できる、ウォーキング大会やサイクリング大会などの開催はどうか。

答弁 体育館の指定管理者「株式会社パストラボ」が中央公園内にウォーキングコースの標識や看板の設置準備をしていると聞いている。これらの資源も活用し関係機関と連携しながら検討する。

空き家の対応

町と町内会の連携を



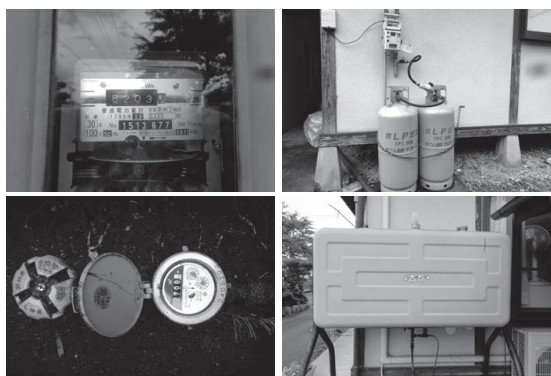
武田啓一郎（町長）情報の連携ができないか検討していく

質問 人口減少と家族形態の社会的変化により、町内でも空き家となる家屋が、年を追うごとに増えている。隣近所に限らず、町内会や地区に言い知れぬ寂しさと防犯上の大きな不安をもたらしている。多くの町内会や地区で、その対応に悩み不安を抱えている。町内会、地域の不安解消策として、町と連携してできることはないか。

答弁 町空家対策計画を策定し対策にあたってきた。計画の中間年度であり、具体的な施策の検証を行い町内の空き家の実態を示したい。空き家になった家を一番身近で早く認知で

きるのは町内会。転出などにより空き家となり、「放置空き家」でさまざまな問題が生じないよう、町と町内会で、空き家に関する情報の連携ができないか検討していく。

質問 空き家となれば電気・ガス・水道の漏電漏水、庭木管理では雑草繁茂や害虫発生などのトラブルが。公的サービスや危険物に関して、町が手続きに関して調整役を果たせないか。



空き家となる時、電気・ガス・水道・石油の手続きチェック。そして町内会・町にお話を...

軽度・中程度の難聴者への支援拡大は



坂田博（町長）町の高齢者は約5千人弱。町単独の創設は財政的に難しい

質問 町の第5次総合計画や第2期総合戦略の柱に「高齢者福祉」や「障がい者福祉」の充実が掲げられ、具体的施策が進行中だ。しかし、その中に18歳以上で障がい等級6級にも該当しない「軽度・中程度難聴者」への支援はない。「軽度・中程度難聴」でも、実生活ではかなり障害を感じるが具体的支援は。

答弁 4月1日現在で町内の65歳以上の高齢者は約4750人。対象者が相当数になると見込まれ、長期的に大きな財政負担を伴うことが想定される。町単独での創設は極めて難しい。

質問 町単独の創設は財政的に難しい。町単独の創設は財政的に難しい。

答弁 令和4年4月1日現在、34・4%となっており、3人に1人以上が65歳以上の高齢者。加齢に伴う聴力の低下は、人との会話によるコミュニケーションがうまくとれず、社会参加への意欲が減少し、心身の虚弱、認知機能の低下、ひいては引きこもりにつながる。

質問 人生百年時代と言われ、高齢者の健康寿命を延ばす視点から、支援制度の実現は。

答弁 本町の高齢化率は、令和4年4月1日現在、34・4%となっており、3人に1人以上が65歳以上の高齢者。加齢に伴う聴力の低下は、人との会話によるコミュニケーションがうまくとれず、社会参加への意欲が減少し、心身の虚弱、認知機能の低下、ひいては引きこもりにつながる。

質問 補聴器の聞こえを支援する磁気ループがある。ホールや会議室・教室などに設置、あるいは携帯型の導入は。

答弁 現段階では施設ごとに磁気ループを設置することは財政負担を伴うもので考えていない。携帯型については、町民のニーズが不透明であり、把握が必要。現段階では導入は考えていない。



補聴器の各種

町土・山間部を守る対策は



朋（町長）森林の保全や農林業をはじめとした産業の振興について推進していく

質問 中山間地域の位置付けは。

答弁 中山間地域は丘陵地域に区分され、主に中地区、作谷沢地区が該当する。豊かな自然環境と景観に恵まれており、産業面では高冷地や湧水を活かした営農が行われている。観光面では大蔵の棚田や作谷沢の湧水群を求めて、多くの人が訪れている。こうした地域特性から、森林および農業生産環境の保全を図りながら、観光・レクリエーションエリアとして位置付けている。

質問 森林環境譲与税の活用状況は。

答弁 令和元年度から3年度にかけて、町内森林の民有人工林について分析し、今後の森林経営や森林管理制度の適正推進を実現するため基本調査を実施している。総合的に判断し「経済林」と「環境林」に区分し、

答弁 各地区の有志、ボランティア団体な

質問 人的交流での施策は。

「経済林」と「環境林」に区分し、



整備された森林は山も平地をも守る

軽度・中程度の難聴者への支援拡大は



坂田博（町長）町の高齢者は約5千人弱。町単独の創設は財政的に難しい

質問 町の第5次総合計画や第2期総合戦略の柱に「高齢者福祉」や「障がい者福祉」の充実が掲げられ、具体的施策が進行中だ。しかし、その中に18歳以上で障がい等級6級にも該当しない「軽度・中程度難聴者」への支援はない。「軽度・中程度難聴」でも、実生活ではかなり障害を感じるが具体的支援は。

答弁 4月1日現在で町内の65歳以上の高齢者は約4750人。対象者が相当数になると見込まれ、長期的に大きな財政負担を伴うことが想定される。町単独での創設は極めて難しい。

質問 町単独の創設は財政的に難しい。町単独の創設は財政的に難しい。

答弁 令和4年4月1日現在、34・4%となっており、3人に1人以上が65歳以上の高齢者。加齢に伴う聴力の低下は、人との会話によるコミュニケーションがうまくとれず、社会参加への意欲が減少し、心身の虚弱、認知機能の低下、ひいては引きこもりにつながる。

質問 人生百年時代と言われ、高齢者の健康寿命を延ばす視点から、支援制度の実現は。

答弁 本町の高齢化率は、令和4年4月1日現在、34・4%となっており、3人に1人以上が65歳以上の高齢者。加齢に伴う聴力の低下は、人との会話によるコミュニケーションがうまくとれず、社会参加への意欲が減少し、心身の虚弱、認知機能の低下、ひいては引きこもりにつながる。

質問 補聴器の聞こえを支援する磁気ループがある。ホールや会議室・教室などに設置、あるいは携帯型の導入は。

答弁 現段階では施設ごとに磁気ループを設置することは財政負担を伴うもので考えていない。携帯型については、町民のニーズが不透明であり、把握が必要。現段階では導入は考えていない。



補聴器の各種

未来を話す会

第12回議会報告会



- 9 ー昨年の7月豪雨で堰が埋まったままになっている（旧山辺中東側）。
- 10 少子化による人口減少が加速している。将来を担う子どもが増えないと町は成り立たないのでは。
- 11 コロナ禍で公民館事業も中止が相次ぎ、コミュニケーションが希薄化し、孤立している人たちも増えている。今こそ社会福祉協議会の出番ではないか。
- 12 旧山辺中、旧大寺小など、遊休施設が増えている。利活用を進めてほしい。
- 13 街灯のLED照明も寿命が近づいている。補助金制度を考えてほしい。
- 14 議会報告会を農繁期に開催するのに疑問を感じる。参加したくてもできない。時期の検討を。
- 15 若手も参加できる魅力ある議会報告会にしてほしい。
- 16 報告会での意見が反映されているのかわからない。フィードバックしてほしい。

ご参加いただきありがとうございました

12回目となる議会報告会を6月4日（土）に、中央公民館で開催しました。今回は参加者と議員がひとつになりじっくりと話し合いを行いました。農繁期の開催となり、参加人数は少なかったものの、全員の声を聴くことができました。いただいたご意見は、今後のまちづくりに活かしていきます。



皆さまから頂いたご意見は、各常任委員会にて検討させていただきます。

- 1 議員定数を減らして、報酬を上げたらどうか。このままでは議員のなり手がいなくなると思う。
- 2 高齢化もあり除雪オペレーターが少ない。豪雪の際は大変ではないか。建設業界で冬期間の人員を確保できるような仕組みが必要ではないのか。
- 3 排雪作業はエリアなどで差がある。幹線道路ばかりでなく、高齢者や子どもたちが多く通行する生活道路も排雪してほしい。
- 4 除雪の時に、自宅前に大量に雪を寄せていくが、何とかしてほしい。
- 5 ブロック協議会について、ここ数年はコロナ禍も影響しているかもしれないが、活動をしていないブロックがある。地域によるのかもしれない。
- 6 有害鳥獣のイノシシを捕まえている。豚熱の影響で、捕獲後は地中深く（1m）埋めるしかない。処分方法の明確化や、きちんとした処分場を設けられないのか。
- 7 年に1回の防災訓練ではどうなのか。夜回り火の用心など継続的なしなかけも必要。
- 8 町内会などにある、消防ホースのノズルやパッキンが劣化している。補助がほしい。

臨時会のあらまし

令和4年4月19日、第2回臨時会が開催され、(町税条例と国民健康保険条例の一部改正、および令和3年度一般会計補正予算(第9号)の専決処分、令和4年度(一般会計補正予算、簡易水道事業会計補正予算および公共下水道事業会計補正予算)について町長より説明があり、全会一致で可決されました。

条例改正・議案審議

町税条例・国民健康保険条例の一部を改正する専決処分
国の税制改正により令和4年4月1日より改正。

主な補正予算

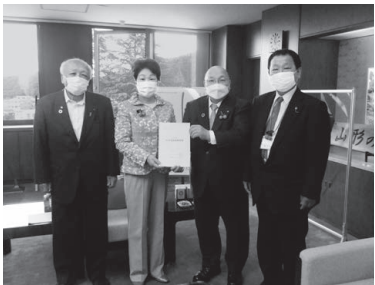
令和3年度一般会計補正予算の専決処分
令和4年度第一回定例会で議決した後、各種交付金などの確定により補正
1億5793万8千円の増
総額 66億4166万9千円

令和4年度簡易水道事業会計補正予算
国の地方創生臨時交付金(新型コロナウイルス関連)により非接触納付システム導入業務委託料 108万9千円
令和4年度公共下水道事業会計補正予算
国の地方創生臨時交付金(新型コロナウイルス関連)により非接触納付システム導入業務委託料 195万8千円
繰越明許費繰越計算書
○非課税世帯等臨時特別給付金事業 3237万3千円
○新型コロナウイルス接種事業 5613万8千円
○体育施設維持管理事業 1100万円
などを令和4年度に繰越

山形県知事へ重要施策の要望

樋口議長が山辺町長・鈴木県議会議員と共に6月17日、県庁および村山総合支庁に山辺町重要施策の要望活動を行いました。
要望事項については次の通りです。

- 子育て支援医療給付の制度化について
すべての子どもが高校生までの医療費を完全無料にする医療費給付制度の創設を、国に対し山形県としての強い要望を
国の制度創設までの間、県による医療給付制度を高校生まで拡大
- 一般国道の整備促進及び現道国道458号線の速度抑制について
○一般国道の整備促進について
大寺小学校以北、中山町境界の目に見える事業の推進を
大塚地内、町中央公園の調査費計上による早期事業化を
○現道国道458号への速度抑制対策について
高橋地内の国道458号と県道山辺中山線との交差点から西側の東進車線に速度抑制路面表示などの安全対策を
- 主要地方道の整備促進について
○主要地方道山形朝日線(山辺工区)道路整備事業促進について
歩道が整備されるまでの間、別の狭い道を通学路に使う子どもたちの安心安全な道作りのために整備促進の加速化を
○山形山辺線(下原地内)道路整備事業化について
狭い道路の通勤通学時のすれ違い困難解消のため、滝平地内の工事が迅速に完成し、バス路線にもなっている下原地内の早期事業化を



専決処分とは…地方公共団体の議会が議決または決定すべき事項を、特定の場合に限り、地方公共団体の長が議会に代わって処理すること。

繰越明許費とは…歳出予算の経費のうち、年度内にその支出を終わらない見込みのあるものについて、翌年度に繰り越して使用する経費。

新しい町への挑戦

議会 活動報告

総務文教常任委員会 施設の有効活用と安全を 確保した維持管理の徹底を

冬期間の豪雪により安達峰一朗生家屋根雪害の報告を受け、総務文教常任委員会を開催し4月7日に現場視察を行いました。
生家は平成27年から29年の3カ年にわたる修繕を行っています。この度のポイントは早急に応急措置を施すものであり、建物の維持管理はもちろんなこと、茅葺職人も減少し、すぐに対応できない可能性もあります。
今後は町文化財でもある安達峰一朗生家の位置付けも協議検討を進めていく必要があると考えます。



山辺の大切な財産、さらなる維持管理を望む

厚生産業常任委員会 一昨年の豪雨災害繰越工事 完了現場視察

令和2年度の7月豪雨災害で町が国の認定を受け対応し、令和3年度へ繰越とした災害工事件数は10件ありましたが、令和3年度に工事が全て完了しました。
その中でも工費が高額であり効果が分かりやすい現場4カ所(大寺金沢線災害復旧現場2カ所、相ノ沢萱場線災害復旧現場、築沢玉虫線災害復旧現場)の視察を4月14日に行いました。

同行した建設課長、係長より説明を受け、いずれの現場も町内の業者が受注業者となり、一部の特殊な工法を除き施工されたこと、安心感の持てる綺麗な工事が完了現場でした。しかしながら、国の認定が出なかった一部がブルーシートで覆われていたり、「またあのような豪雨がなければ心配」と気になりました。
最後に建設課長より、豪雪による災害のまとめ(オペレーターなどからの聞き取りなど35件)の報告があり、こちらも保険対応などで完了したとのことでした。



視察の途中、現場の1カ所近辺の沢に、不用となった家庭用品の不法投棄が見られたことは残念でした。

広報常任委員会 広報研修2022 誰のため?何のための広報か!

山形県町村議会議長会の広報研修会が7月13日にビッグウイングで行われ、「住民に読まれ、伝わる議会の存在感高める」と題して、議会広報の基本と編集方法を学んできました。

「どんなに素晴らしい議会活動も、それを住民が知らなければ、評価はなきに等しい。住民が知りたいことと議会が伝えたいことをつなぐことが企画の基本。議会の活動が住民に伝わり、理解されるまでが議会の責任である」ということ。これからも議会だよりを多くの皆さんから手に取っていただき、議会活動がわかりやすく理解してもらえるような読みやすい紙面を作っていきたいと思っています。
山辺議会だよりは2022年1月号(115号)を評価していただきました。本文が読みたくなる「見出し」が重要であるとのことでした。広報委員会の編集はもちろん、一般質問のページも各議員が編集し、皆さんが読みたくなる文章を作ることが大切だと感じました。
こんな町になつてほしい!などの皆さんのメッセージもお待ちしております。



各町の広報に具体的な添削も